

企業紹介

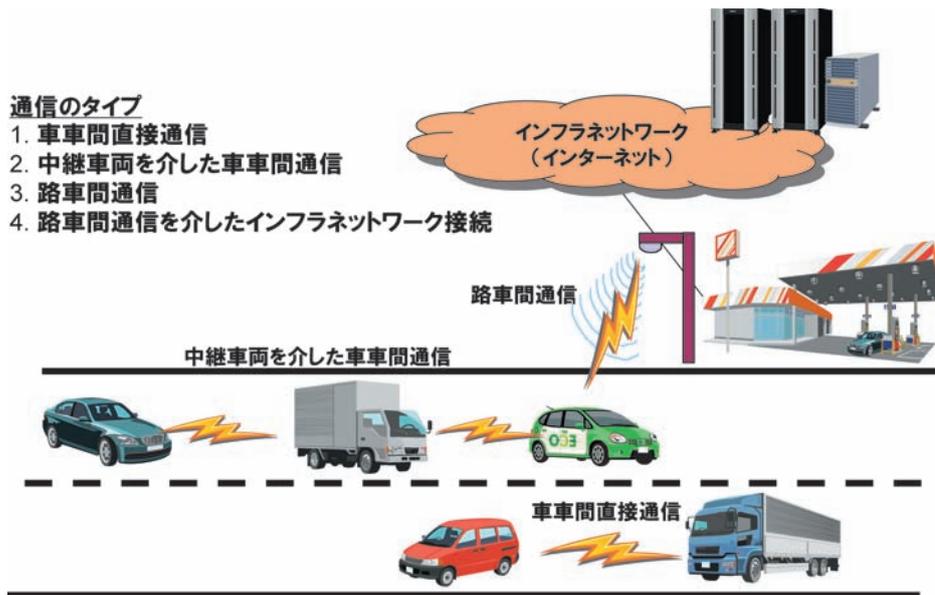


図2 FleetNet

3 環境分野への取り組み

京都議定書において2008年から2012年までの期間中に、日本の温室効果ガス排出量を1990年に比べて少なくとも6%削減することが求められており、そのうち運輸部門の2010年度CO₂排出量の目標は2億5千万トンで、そのためには運輸部門として5,490万トンを削減する必要があります。その中で自動車としては4,040万ト

ン、内訳として、燃費改善などによる自動車単体対策で2,540万トン、燃料対策120万トン、交通流対策として1,380万トンが求められています。この中で特に交通流対策のソリューションとして、ITSの貢献に期待が寄せられています。

こうした中で注目を集めているのがプローブ情報システムです(図3)。プローブ情報システムは車を動くセンサとしてとらえ、位置、速度等の情報を各々の車から

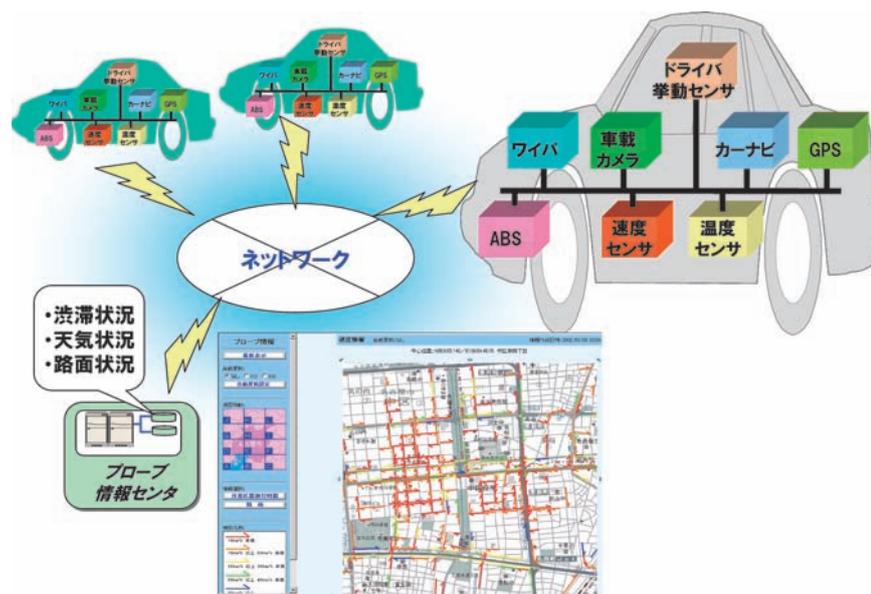


図3 プローブ情報システム

発信することにより、車両が通過した経路上の情報を得ることが出来るため、主要幹線道路などを対象にして設置された路側センサより、多くの道路区間の交通状況をリアルタイムに把握することができます。このように従来把握できなかった幹線道路以外の交通状況が把握できるようになり、最適な形で経路誘導が可能になります。

NECは国内で大規模なタクシーの実証実験などを通して、プローブ情報システムの技術開発を進め、2006年には中国北京市のプローブシステムの旅行時間データベースの自動更新機能の構築を担当しました。このシステムは北京市のタクシーに位置情報を発信する車載器を搭載することを義務付け、そのタクシーからの位置情報を基に道路交通情報を生成するもので、今後の中国でのテレマティクスサービスの基盤となるシステムです。

また、走行データを通信によりリアルタイムに収集し、運転挙動を分析してメールやインターネットによってエコドライブ実施のための情報を提供する「エコドライブ診断システム」を開発し、オートリース会社などで利用していただいています。

4 利便性分野への取り組み

民間分野でも、車をネットワークに繋げるテレマティクスサービスが車メーカーを中心に、トラックメーカー、オートリース会社などで始まっており、既に数百万台以

上の車がサービスを受けています。サービスとしては、プローブ情報を利用した交通情報、走行周辺のPOI (Point of Interest) 情報の提供や、エコ運転診断、安全運転診断などがあります。また、普及したETC車載器を活用したソリューションも出始めています。

ETC車載器の固有IDにより車両を識別・管理することで、駐車場などにおける車両入退場管理や、利用車番号とクレジットカード番号とを紐付けたキャッシュレス決済サービス、フェリーでのドライブスルー式乗船システムなどが実現されています。

NECは愛知県豊田市で実施されている『ETC活用共同荷捌き駐車場』社会実験において、運送車両に対し、時間貸し駐車場に荷捌き車両の専用スペースを設け、事前登録されたETC車載器を搭載した運送車両が駐車場に来ると、入口のゲートが開くと共に、専用スペースのフラッパーが開き、そのスペースに駐車して荷捌き作業ができるようにしたシステムを担当しました(図4)。

5 むすび

このようにNECはITS分野において安全・安心、環境、利便性それぞれの分野でソリューションを提供しています。NECグループとしましては今後とも、ITSのコアとなる技術の開発ならびに、社会に役立つソリューションを提供していく所存です。



図4 豊田市におけるETC活用共同荷捌き駐車場